

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2396300010		
法人名	都メディカル有限会社		
事業所名	グループホーム 設楽名倉の家 (1号館)		
所在地	愛知県北設楽郡設楽町東納庫字古松4番地		
自己評価作成日	H26年 7月 8日	評価結果市町村受理日	平成26年9月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年7月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H25/11/1に新規開設し、現在1ユニット9名入居の状況。山間部に位置し、標高が高く四季折々の山や田園風景の良い所です。提携病院の往診もあり入居者・ご家族様に対して安心して頂けるが安心して生活できる配慮をしている。また入居者様の体調急変時には、日中は職員が病院受診対応している。医療面に於いて必要に応じて家族の協力も得ながら病院受診する体制もとっている。日常の健康管理では、朝・昼と2回バイタル測定を行い体調変化観察をしている。地元ボランティア団体も3団体となり、歌や踊り・話相手も行っている。施設近隣住民との交流も図っている。家族や知人の面会も多い。家庭的な雰囲気としてコタツやソファ・テーブル等があり仲の良い者同士での居場所確保ができています。入居者様のご家族等に近況連絡(個人情報発信・便り等)随時行っている。各季節に合った行事の企画・実施、食事の提供に心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑に囲まれた地域で、自然を生かした事業所作りを考え実践している。近所の方が利用者を楽しんでもらえたらとの思いで、ホームの前の畑に色とりどりの花を植えてくれたり、近所の子供たちがホームの前を通ると呼びかけ、利用者と共に過ごしたりするなど地域との交流が盛んである。ホームのかかりつけ医の往診や同一法人内の医療設備や施設などの協力体制が万全で、利用者や家族にとって安心できる環境である。「その人らしく自由気ままに暮らす」の理念は、一人ひとりの思いを大切にすることで実践され、それぞれが心地よく寛ぐ様子からもうかがい知ることができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが		

バシカテロ	4. ほとんどいない
-------	------------

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所に理念を掲示するとともに職員会議にて説明を行い、共有し実践に繋げている。	「その人らしく自由気ままに暮らす、利用者のできない所を支援する」ことを理念としており、新しい職員には日常的な会話や会議の中で話すようにしている。それぞれの利用者に応じてケアを行い、また、安心・安全につながるように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買物外出時、地域・近隣の方との会話や地域のボランティア団体(唄・踊り・草刈等)協力頂き交流を図っている。	日常的に神社や公園へ散歩に出かけたりしたときに交流を図ったり、近所の人が、利用者によく見えるよう畑一面に花を植えて楽しませてくれている。また、ホームの前の道を子供が通る際にはホームの中に入れてもらい、利用者とはパズルをしたりして交流を持つようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症等介護が必要となった方の相談やサービス提供事業所などを紹介している。また、運営推進会議を通して情報提供も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回定期的に開催し、施設の運営状況を報告し課題については、話し合いを行いサービス向上に向けて展開している。	会議は開設の翌月から2ヶ月ごとに開催している。ボランティアの紹介をしてもらったり、職員募集のチラシの配布先を教えてもらったりしている。特に防災面においては、役所や民生委員へ協力体制を要請している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や事業者会議を通して当施設の実情を報告し、町や地域包括・民生委員よりいろいろなアドバイスを頂き改善するところは改善するよう心掛けている。また、各種変更届け手続きも町と連携しながら取り組んでいる。	地域包括主体の事業者会議が約3ヶ月ごとにあり、出席して交流を図っている。開設して間もないこともあり市の職員が訪ねてきたり、必要に応じて設楽役場や根羽役場へ出かけることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内年間教育研修の中で身体拘束をしないケアに取り組んでおり意識を高めるようにしている。また、朝礼でも行っている。	法人内研修や朝礼で身体拘束について具体的な事例をあげながら勉強している。玄関の鍵は日中は施錠せずに見守りで対応している。スピーチロックに関しては、見かけたらその場で注意して、意識の強化を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内年間教育研修の中で身体拘束をしないケアに取り組んでおり意識を高めるようにしている。また、朝礼でも行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内教育を実施し、各職員の知識レベルUPが図られている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、契約書に基づきキーパーソン(家族等)に説明及び質疑応答し納得して頂いた上で契約している。利用料変更(文書発行)も説明して同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置や日常生活の中で各職員が各利用者さんより意見や要望を聴き満足が得られるように対応している。面会時、家族の方には、ホームに対しての意見を聞くことに心掛けている。便りや個人情報発信を家族に対し実施している。	利用者家族に向けての「ホーム便り」や施設での日常生活状況と変化を記入した「個人情報発信」を送付している。ホームの協力医に往診をしてもらうようになり、医療面において家族からの安心が得られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回行い、地域責任者・管理者が出席し、意見や提案等を通して可能な限り、運営に反映している。	職員より毎日のミーティングを設けたいとの提案があり、業務やケアについての話し合いを行っている。また、食材を業者に委託する件については、法人に問い合わせて検討している。管理者会議を毎月行い、職員に内容を伝え、周知を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の労働環境を考慮した勤務形態をとっている。勤務状況を把握・評価し、給与・賞与に展開している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力に応じて本部・事業所内・外部教育参加(定期・不定期)にて人材育成を図っている。資格取得に向け勤務面でサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や社協主催の事業所会議などに出席しお互いに情報交換している。(3ヶ月に1回程度)他施設との交流も図り情報交換している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居説明・契約時に本人にフェイスシート・アセスメントシートに基づき情報を得てサービスに展開している。サービス提供を開始してからは、日常生活での関わりの中から情報収集し、信頼関係改善に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居説明・契約時に本人に関する家族からの情報をフェイスシートに記載してサービスに展開している。ご家族が訪問時、生活状況を報告し要望等をお伺いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	NO.15,16を考慮して可能な限り、他のサービス利用が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に買物・花壇活動・掃除・洗濯物干し、たたみ等を行い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族へ本人の生活状況を報告し、家族から意見を頂きサービス提供に生かしている。また、家族と外出する場合にも支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の面会が自由に出来ている。地域内での外気浴・散歩・買い物・地元ボランティア活動の受入れ等を通して馴染みの関係が図られている。	地元の友人や幼馴染みの友人や以前住んでいた隣の人が訪ねてくることがある。また、ボランティアに来ている人が利用者と顔なじみの人がいて、会話を楽しんだりしている。地元の人が多いので、散歩で行く神社は馴染みの場所でもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席の配置やレク等を通して利用者同士が関わり、支え合えるように職員が利用者様一人ひとり把握し支援している。日常生活の中で共同作業が出来るよう支援している。(洗濯物干し、たたみ、掃除等)		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した家族からの相談等あれば支援するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活で、各職員が各利用者よりニーズを汲み上げて可能な限りサービスに盛り込み支援している。	入居時のアセスメントを基にして、花の世話や歌を歌うなど利用者の好きな事を行っている。また、本人に直接要望を聞く時もあり、本人の意向に添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを基に利用者様との会話等を通じ、これまでの暮らし方、馴染みの暮らしの把握に努めている。又、新たな事実が分かった時点で記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを大切に、日常生活では心身の状態を観ながら残存能力に応じて生活支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリング・本人家族の意向聴き取り・職員カンファレンスを実施して介護計画に展開している。	日々の介護記録や3ヶ月毎のモニタリングを基にして、家族からの要望を踏まえて、職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録及びカンファレンス内容に基づき介護計画を作成している。入院して退院した場合には、介護計画を再検討するようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診付き添い・散髪は、基本として家族対応であるが、都合のつかない場合は、職員対応している。外食も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア活動の受入れや近隣の保育園児・小学生が当施設へ遊びに来て入居者様と交流を図っている。また、近隣の神社お参りや散歩しながら花見・買物等ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ病院と連携を図り支援している。月2～3回の往診がある。個人のかかりつけ医については、家族の協力を得て支援している。	入居後、それぞれのかかりつけ医からホームの協力医へ変更してもらっている。協力医より、専門医受診が適切と思われる場合は、紹介状を書いてもらい家族が付き添いをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院(山田醫院)の月2～3回の往診にて医師と連携を図り支援している。緊急時と同様。体調の変化に応じてすぐに電話相談し適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関及び家族との連携が図れている。医療機関・家族との連絡を密にし、情報提供・共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期段階から家族・医師と繰り返し話し合いを行い、方針に沿って支援している。	家族に、ホームとしての重度化や終末期に向けた方針を説明して同意を得ている。食事が摂取できなくなったり、医療行為が必要になったら、同法人の他施設へ移転を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき対応している。マニュアルは事務所に掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で話し合いを行い地域協力体制を築いている。消防署の指導のもと、通報・避難誘導・消火訓練を定期的に行っている。地域・消防との協力体制は整っている。	年2回の避難訓練を利用者と一緒に行っている。緊急連絡網を作成したり、近隣の人に協力も呼び掛けている。	地域の人達も参加する避難訓練が実施出来る事を期待している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護及び個人情報の守秘義務を守るよう徹底している。マニュアルで職員に研修している。	プライバシー保護についての研修を行い、職員に周知を図っている。利用者に対して、親しみを込めた言葉使いに努めているが、節度のある対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各職員が利用者の希望を聴き取り、可能な限りの支援をしている。自己決定できるように選択してもらっている。(花の水やり・塗り絵・パズル等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当施設の運営ルールに基づき、可能な限りその人らしい暮らしの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重し、その都度職員が対応している。服の買い物・更衣時の服の選択など支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各人、その日の心身状況に応じて調理・盛付・片付け・食器拭きを一緒に行っている。年1回嗜好調査を実施して評価の低い所は、改善に努めるようにしている。	食事は毎日冷蔵庫の食材をみて、昨日と同じ献立にならないように注意しながら季節感のある飽きない献立づくりを心がけている。また、利用者に何が食べたいか聞いて献立を決める時もある。誕生日会や手作りおやつは楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮しながら調理し、一人ひとりに合わせた食事量を提供している。一日の水分摂取量を1.5リットルを目安に摂取している。利用者の訴えによりその都度、水分提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時のうがい、毎食後うがいや歯磨き・義歯洗浄を実施している。定期的(2回/W)にポリドントにて義歯消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人の身体状況や排泄パターンに合わせて支援している。個人によっては、リハビリパンツなどを利用している。オムツは、使用していない。	日中はトイレでの排泄支援を行っており、利用者のそわそわするなどの表情や行動を見逃さず自立につなげている人もいる。夜間は定期的に見守り、パット交換をしたり、トイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜など繊維質が多いを献立にしたり、水分摂取、適度な運動(散歩、ラジオ体操など)で身体を動かすようにしている。必要に応じ腹部マッサージや医師から便秘薬を処方頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴可能ですが本人の意思を尊重し、無理強いをせず、ゆったりと入浴できるように心掛けている。基本として1日おきに入浴している。	14時頃から入浴を行っており、入浴を拒む人は現在いない。本人が洗にくい背中や足など職員が介助して清潔保持に努めている。週3回は入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズム・体調に合わせて休息し、安眠できるよう個々に快適な室温・湿度・明るさ・寝具を調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服薬している薬の目的・作用・量を、職員全員が理解し、名前・日付等確認し、職員が手渡し等で服薬頂いている。変化が観られた時には主治医への受診・相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り、一人ひとりが何らかの役割を持ち、共同生活ができている。また、レクを行ったり、気晴らしのため、定期的に外出している。可能な限り、本人が食べたい食事を提供している。ボランティアによる歌・演奏・踊り等定期的に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	可能な限りの外出支援(買い物・散歩・外気浴ドライブ・外食等)ができている。家族との外出・外泊支援もできている。	天気の良い日には、近隣の神社までの散歩や、ホーム前の花畑を見に行くなど戸外に出かけている。洋服や嗜好品の買い物に地域の馴染みの店まで外出することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは家族の理解の下、施設で預かっている。能力に応じて買い物時は、小遣いを渡し使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り、電話や手紙のやり取りが出来るよう支援できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・居間・居室には季節感を出す飾り付けをしている。個室・共用部の照明・温湿度・窓・カーテン等の開閉にも気をつけ住環境を整備している。	リビングの窓からは山や畑が見えて四季を感じる事ができる。畳スペースがあり、そこでテレビを観たり、テーブルを囲み歌を歌うなど利用者が思い思いに寛いでおり、居心地の良さがうかがえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内ソファ、畳の炬燵、食卓テーブル、玄関横には、移動式ベンチもあり、思い思いに過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の嗜好に基づいて居室を自由に使用している。使い慣れた物や好みのものを置いている。(TV・ラジオ等)但し、危険物・高価なものは除く。	居室はスッキリとして、掃除が行きとどき清潔である。テレビ、ベッド、小物が置いてあり寛げる居室となっている。転倒防止のため、布団を敷いて寝ている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人の心身状態を考慮して安全・安心・安楽を基本に自立した生活が出来るよう工夫している。(ベッドの高さ調節・電動ベッド、バリアフリー、手摺り、障害者用トイレ、扉は引戸で軽いなど)		